〝みみはら〟らしい地域包括ケアの実現へ

少子化と超高齢社会を迎える地域社会で、地域の人々のいのち・健康、暮らしを守り、支えるため、みみはらグループとしてどんな役割を果たしていくのか――医療と介護の連携、そしてまちづくりの視点で事業構想を検討するプロジェクトチームを立ち上げ、議論を進めています。そのチームメンバーから、新年を迎えての抱負を寄せてもらいました。

事業内容を理解し、さらに学習を

介護老人保健施設 みみはら 管理師長
小川　淳子

「同仁会の地域包括ケアの事業をどうしていくのか」―この事業には、堺区のみならず、西区、北区、高石市の方々も利用され、当然期待されることと思います。そこへの理解も必要かと思っています。そして私たちメンバーは、それぞれの事業の内容をより理解し、さらに学習も必要です。そのうえで各事業が成り立つように、連携協力が重要であると思います。これが友の会の方々をはじめ、地域の方々のためになるよう、微力ながら頑張ります。

友の会や地域の皆さんに役立つ事業に

耳原総合病院 事務次長
端　伸一郎

耳原総合病院は、2012年に地域医療支援病院、2017年に大阪府がん診療拠点病院に認可され、「地域の中の急性期病院として一定の役割を果たしてきた」と自負しています。

一方で、入院患者の平均入院期間（平均在日数）は10日前後となり、長期間治療を必要とする方に医療ケアを提供することは、叶いませんでした。このたび、同仁会として今まで提供できていなかった医療・介護ケア分野にも、チャレンジすることになりました。友の会の皆さん、地域の皆さんのお役に立てる事業を実現できるよう、プロジェクトの一員として頑張ってまいります。

支えあいのまちづくりに向けた視点で

NPO法人「結いの会ともうず」 事務局長
城　世津子

誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らしていけることを願っています。しかし未来を見据えたとき、医療や介護の公的保障が削られ、衣食住にすら困窮してしまう方が増加するのではないでしょうか。"みみはらグループ"では、堺区での事業展開の方向性を考え、実践していくために、「地域包括ケア」構想に取り組むことになりました。NPO法人「結いの会ともうず」は、非営利活動にふさわしい、支えあいのまちづくりに向けた視点で、この活動に貢献したいと思います。

質の高い医療提供と地域の健康増進を両輪で

耳原総合病院 副病院長
大矢　亮

医師になって、多くの患者さんの診療に関わる中でSDH（健康の社会的決定要因）の重要性を痛感し、質の高い医療の提供と地域の健康増進を両輪で取り組む必要性を感じてきました。このチームの活動が、みみはらグループを中心に健康なまちづくりを展開していく、ワクワクする事業となるように、これまで関わってきた日本HPHネットワークなどでの経験や学びを活かしていきます。どうぞよろしくお願いします。

「超高齢社会」の壁に私たちらしく応える

社会医療法人同仁会 専務補佐
柴田　康宏

事業継続のため、組織が社会的存在意義を求められる「パーパス・マネジメント時代」になりました。みみはらグループが求めてきた姿でした。グループの三法人（同仁会、ひまわり会、泉州メディカ）とNPO、そして友の会が有機的に繋がり、地域にどのように貢献できるのかを楽しみにしています。「超高齢社会」という壁に、私たちらしく応えていきたいと思います。「みみはら2030年の樹」と「みみはらセーフティリンクの実現」を目指していきたいと思います。

高齢者の見守りに「地域包括ケアシステム」が重要

社会医療法人同仁会 副理事長
今村千加子

患者・利用者・地域住民にとって、地域で安心して住み続けるためには、医療や介護の充実が必要です。同仁会では、堺の地域で長年にわたり、医療や介護を提供してきました。超高齢化が進む中、その役割はますます増えてくることが予測されます。高齢者を地域で見守るためには、「地域包括ケアシステム」が重要になります。みみはらグループとして持っている機能を最大限に生かし、不足している機能を補強することで、地域住民にとって住み続けられるまちづくりの一助となるのではないでしょうか。そのために、グループとして努力したいと思います。

地域の方やグループの皆さんに学びながら

社会福祉法人 ひまわり会 介護事業部　部長
太田　斎子

「ひまわり会」は、堺市西区の鳳・堺市北区の蔵前に、高齢者住宅と看護小規模多機能を含めた介護サービスを展開してきました。このたび、みみはらグループの拠点である堺区において新たに住まいづくり、また地域の方を支えるためのサービスづくりに着手することとなりました。

鳳や蔵前で培った経験を活かしながら、また新たに地域の方やグループの皆さんに学びながら、頼りにしていただけるような「ひまわり」を創っていきたいと思います

医療、介護の両方で積極的に関わっていく

一般社団法人 泉州メディカ 副理事長
和田　憲周

保険薬局の取り巻く現状は、ここ数年で大きく変化しています。保険薬局に求められている地域の健康を守る役割、医療分野での役割、介護分野での役割と、それぞれの関係部門と連携していく必要性がこれからも増えていくでしょう。地域に必要な薬局であるためにも、みみはらグループの地域包括ケアの一員として、泉州メディカは医療、介護の両方で積極的に関わっていきたいと考えています。

「みみはらグループ」の強みを活かして

耳原総合病院 副看護部長
春木　康子

地域から求められるもの、ニーズに沿った医療や介護や暮らしへ提供できるものは何か。みみはらグループの強みを活かして、新たな事業展開を考える一員になれることを光栄に思っています。

私は卒後30年になりますが、耳原総合病院で働いた経験しかなく、急性期しか知りません。だからこそ、急性期病院だけでは完結できないことを実感しています。

皆さんと議論しながら学び、役割を果たせるよう頑張りたいと考えています。

健康格差を克服できる地域づくりを

耳原総合病院 技術部長
大島　美生

私は長年、理学療法士として、障害を持った方々と関わってきました。その中で、「心身ともに健康であり続けたい」との気持ちに応えることも大切だと感じてきました。

健康とは、ただ元気であるということではなく、病気や障害の有無に関わらず、その人らしい生活を送ることができる状況でもあります。今、「生活や環境、経済状況などにより、健康に格差がある」と言われています。みみはらグループの地域包括ケア事業は、子どもから高齢の方まで、健康格差を克服できる地域づくりでありたいと考えています。

「つながり」が「地域包括ケア」のキーワード

健康友の会みみはら 事務局長・社会医療法人同仁会組織部長
篠原　聡

「地域包括ケア」は、「つながり」がキーワードです。「住み慣れた地域で」「できる限り今の『つながり』を保ちながら」の視点が大切だと思います。友の会会員10万人の願い、地域の人々の「声」をしっかりととらえながら、「利用する」だけでなく、主体者として地域での役割を発揮してもらえる、「みみはらならではの『地域包括ケア』」を、検討チームメンバー、友の会のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

個別のニーズに切れ目なく一体的に

社会医療法人同仁会 介護事業部長
甘田　尚子

介護保険、介護事業とは、高齢者だけのものではありません。実際に、介護の大変さを実感された方も多くおられると思いますが、働く世代の家族にとっても、介護サービスは必要不可欠です。医療ニーズを併せ持つ高齢者も、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる、「医療・介護が切れ目なく、個別のニーズに応えていける」そんな地域包括ケア事業をめざしていければと思います。